

日本医科大学付属病院東洋医学科活動報告

部長・助教授	三浦 於菟
非常勤講師	斉藤 輝夫
	春木 英一
研究生	古賀 実芳
	川嶋 裕子
	廣瀬 誠
	升 森隆
	小林 瑞
非常勤鍼灸師	土屋 喬
	福島 厚

1. 沿革

本科は、平成2年7月、千代田区飯田橋にあった日本医科大学付属第一病院の東洋医学外来として発足した。平成4年6月、日本医科大学付属第一病院東洋医学センターと改名し、病院長直轄の診療研究教育組織となった(センター長藤木健一)。付属第一病院の閉院にともない、平成9年7月、文京区千駄木にある日本医科大学付属病院の東洋医学科として移転再発足した。平成15年4月に日本東洋医学会研修指定施設(指導医：三浦於菟、春木英一)として認定された。

2. 診療教育研究活動

診療概要: 東洋医学とは、中国より伝来し本邦に根付いた民族的な伝統医学であるとの認識に立ち、流派にこだわらず、本来の伝統医学的観点と体系に基づき診療する事を方針としている。また西洋医学的診断を明確にした上での診療を原則とし、他科との連携を重視している。だが初診患者のほとんどは、西洋医学的診断を経ている。西洋薬の処方原則としておこなわず、必要な時には他科へ依頼している。

月～土の午前午後の1診であり、鍼灸師による鍼灸専門来は、月・水・土の3日である(土曜日は鍼灸外来のみ)。約35%が煎薬で、エキス剤と共に院外処方としている。

初診疾患は、以下の通りである。呼吸器疾患15.9%、消化器疾患12.8%、皮膚科疾患12.5%、婦人科疾患10.9%、精神疾患(含心身症)0.6%、整形外科疾患6.2%、循環器疾患5.4%、神経疾患5.3%などである。

教育啓蒙普及活動: 学生講義は、4年生に2コマおこなっている(必修)。ただ講義時間は不足との感はまぬがれず、今後の課題である。外来実習は、4年生の診断学実習の一日(割り当てられた者のみ)と、5年生の希望者による臨床実習がおこなわ

れる。

平成2年の東洋医学センター設立より、毎月第4or5土曜日の午後6時半より公開研究会をおこなっている。現在は、“実践処方解説”と題し、主にエキス剤を中心とした漢方方剤の構成・適応と症例検討を行っている。また本研究会で既におこなった“実践漢薬学”の講義の内容は、『漢方研究』誌上に掲載し、これを修正加筆して平成16年1月に医歯薬出版株式会社より『実践漢薬学』として出版した。

平成9年より、毎年夏季に医薬学生・医師・医療系学生などを対象とした“理論東洋医学セミナー”を開講している。本セミナーの方針は、あくまで東洋医学の実践を重視し平易な解説を試みる。東洋医学の独自の学問性を重視し、伝統的理論体系に基づく解説を試みる。民族伝統医学である東洋医学の文化的背景を探るなどである。5回目である平成15年度は、8月3・4日に基礎コース、9月6・7日に応用コースを実施し、基礎コースは73名、応用コースは21名の参加があった。

平成13年度より毎月2度(8月と12月は除く)、一般の方を対象とし、東洋医学の啓蒙普及のために“市民のための漢方教室”を実施している。平成15年度は、病気と東洋医学、東洋医学の知識などについて実施した。

毎月一度、第二火曜日に古典医書漢文『格致余論』訓読会をおこなっていたが、現在は休会中である。

研究概要: 中西結合などのあいまいな概念にとられず、あくまで東洋医学的観点に基づき、より臨床に根ざした研究を方針としている。具体的には、臨床例や古典よりみた東洋医学の有用性の研究、東洋医学的病態概念の科学的実証などをおこなっている。平成15年度は、季節性アレルギー性鼻炎の実体と東洋医学的病態像、梅核気の東洋医学的病態像、玉屏風散の臨床応用などをおこなった。

3. 研究業績

◇原 著

- 1) 三浦於菟：清心蓮子飲と清脾飲で軽快した多汗症の一例，漢方の臨床 50 (1)，125-131，2003
- 2) 三浦於菟：アレルギー性鼻炎，特に春季花粉症の東洋医学的病態像の検討，日本東洋医学雑誌，54 (1)，116-125，2003
- 3) 三浦於菟：濟生医録 (7) 半夏厚朴湯によらな

- い梅核気の3治験例, 東静漢方研究室, 26(1), 10-17, 2003
- 4) 三浦於菟: “清心蓮子飲と清脾飲で軽快した多汗症の一例” 追加考察, 漢方の臨床, 50(6), 151-155, 2003
 - 5) 古賀実芳, 齊藤輝夫, 三浦於菟: 苓姜朮甘湯が著効しためまいの一例, 漢方の臨床, 50(8), 1117-1119, 2003
 - 6) 三浦於菟: 半夏厚朴湯適応外梅核気の病態—多変量解析による構造的把握—, 東静漢方研究室, 26(5), 50-63, 2003, 平成15年
 - 7) 三浦於菟: 濟世医録(8) 西洋感冒薬で寒証胃痛を来した一例, 東静漢方研究室, 26(5), 5-6, 2003
 - 8) 三浦於菟: 夜間自我喪失に加味逍遙散合甘麦大棗湯, 漢方の臨床, 50(12), 1680-1682, 2003
- 2) 三浦於菟: 半夏厚朴湯を使用せず軽快した梅核気症例の検討, 第54回日本東洋医学会学術総会, 2003
 - 3) 古賀実芳 et al, : 外環境の変化で悪化をみた2例, 第54回日本東洋医学会学術総会, 2003
 - 4) 福島厚温 et al, : 温清飲が奏功した慢性再発性アフタの一例, 第54回日本東洋医学会学術総会, 2003
 - 5) 三浦於菟 et al, : 玉屏風散加減で軽快をみた難知性蕁麻疹3例, 第60回日本東洋医学会関東甲信越支部学術総会, 2003
 - 6) 古賀実芳 et al, : 漢方薬に麦芽糖水飴を同服することで口乾・乾性咳嗽が軽快した2例, 第21回日本東方医学会, 2003

◇総 説

- 1) 三浦於菟: 実践漢薬学第十七回漢薬学各論—安神薬—, 漢方研究, No, 374, 63-68, 2003
- 2) 三浦於菟: 春季花粉症の東洋医学的病態像—漢方薬を使った花粉症の新しい治療法—, Medical ASAHI, 32(4), 44-46, 2003
- 3) 三浦於菟: 漢方ものりし辞典・東洋医学対語術語② MEDICAL KANPO・春, 12, 2003
- 4) 三浦於菟: 消化器疾患に伴う全身症状と漢方処方の実践的解説—エキス剤使用の手引きを読み解く—(上), 漢方研究, No, 376, 137-142, 2003
- 5) 三浦於菟: 消化器疾患に伴う全身症状と漢方処方の実践的解説—エキス剤使用の手引きを読み解く—(下), 漢方研究, No, 377, 199-210, 2003
- 6) 三浦於菟: 実践漢薬学第十八回漢薬学各論—補虚薬—, 漢方研究, No, 378, 242-249, 2003
- 7) 三浦於菟: 実践漢薬学第十九回漢薬学各論—補虚薬—, 漢方研究, No, 379, 268-275, 2003
- 8) 三浦於菟: 漢方ものりし辞典・東洋医学対語術語③, MEDICAL KANPO, 秋号12, 2003
- 9) 三浦於菟: 実践漢薬学第二十回漢薬学各論—補虚薬—, 漢方研究, No, 382, 434-437, 2003
- 10) 三浦於菟: 実践漢薬学第二十一回漢薬学各論—補虚薬—, 漢方研究, No, 384, 536-540, 2003

◇学会発表

- 1) 土屋喬 et al, : 花粉症の鍼灸治療, 平成15年日本東洋医学会東海支部静岡県部会学術講演会, 2003